

清友

No. 71

2015年7月



初夏の山を彩るチングルマ

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



6.4 戦争法案反対！国会前集会



6.11 戦争法案反対！国会前集会



とめよう！戦争法 6.14 国会包囲行動



6.18 戦争法案反対！国会前集会

戦争させない

戦争法廃案 安倍政権退陣

「戦争法案」反対の闘いは、国会会期の95日間延長により、9月末までの長期戦になりました。

戦争法は矛盾だらけ

5月26日から「戦争法」の国会審議が行われています。この中で、法案のほころびや政府答弁の矛盾が明らかにされています。どんな場合に集

安倍応援団の発言は

安倍の本音

6月26日、自民党若手議員勉強会で、安倍のお友だちの一人百田尚樹【2面へ続く】

团的自衛権が必要か、安倍が語れば語るほどボロが出ています。圧倒的多数の憲法学者が「憲法違反」と指摘しているように、憲法を変えずに集団的自衛権を行使可能にすることは、無理があるからです。

ホルムズ海峡は日本の生命線か？

安倍政権は「ホルムズ海峡の機雷封鎖で日本への原油供給が絶たれ経済危機に陥る」と強調します。日本のエネルギー需要は、シエールガス・LNG 40%、石炭 30%、原油 13%で、国内に200日分以上の原油備蓄があり、ホルムズ海峡が封鎖されてもただちに危機にはならず、他のルートで原油を確保するなど解決策はたくさんあります。

そもそも、国際関係からみて、イランがホルムズ海峡を封鎖することそのものがあり得ません。



戦争への道をゆるさない6.23 東京集会



とめよう！戦争法 6.24 国会包囲行動

は「沖縄の地方2紙はつぶさないといけない」等と発言し、出席議員が「マスコミを懲らしめろ」と暴言を吐きました。この勉強会は、安倍の側近中の側近が出席した安倍肝いりの会合です。一連の発言は安倍の本音を表しています。

闘いは日を追って高揚

「戦争法」反対の闘いは、日に日に高揚しています。5月21日から始まった「国会前木曜行動」は、回を重ねるごとに参加者が増えています。国会を包囲する大行動には6月14日に2万5千人、6月24日夜は3万人が集まりました。また、全国各地でも反対集会が開かれ、「戦争法反対」の声はますます高まっています。

強行採決をゆるさない

安倍が勝手に交わしたオバマ米政権との約束を履行するため、戦後最長95日間もの国会会期延長を強行しました。そして、7月中旬以降の強行採決を視野に入れ始めました。強行採決は断じて許せません。

暑い夏を闘い抜こう

国会前集会で若いおかささんたちの姿が目につきます。「デモに参加したこともない」という若い人が国会前に来るのは「法案が通れば子どもを戦場へ送り出すことになる。」からです。孫や子を戦争で死なせたくありません。高齢者にはきつい真夏を迎えます。無理は禁物ですが、安倍政権に今以上の圧力をかけて、何が何でも「戦争法」を廃案に追い込みたいと思います。退職者会は全力で頑張ります。

「戦争法」を廃案に追い込みたいと思います。退職者会は全力で頑張ります。



残業代ゼロ・生涯派遣法阻止

残業代ゼロと生涯派遣法をもたらす労働法制改悪の阻止へ向け、連合は、6月12日に日比谷野外音楽堂で大集会を開催しました。夫を過労死で失った遺族は、「過労死促進法案だ。」、派遣労働者は、「権利を主張したら即首を斬られる。」と、法案を批判。しかし、安倍政権は、派遣労働者等当事者の声を圧殺して、6月19日、衆院で改訂派遣法を強行採決しました。派遣法の論戦は参院に移りましたが、まだあきらめるわけにはいきません。天下の悪法を廃案に迫りましょう。



オスプレイ配備をゆるさない

6月20日、米軍横田基地撤去とオスプレイ配備阻止へ向けた集会と基地抗議デモが行われました。「米軍基地反対実行委員会」による沖縄・辺野古新基地建設反対の闘いに連帯する行動です。集会は瀬瀬実行委員長（東京清掃副委員長）の挨拶で始まり、横田基地周辺自治体議員の取組み報告などを受けた後、基地へ向けてデモ行進し、ゲート前で、米軍と航空自衛隊に対しオスプレイ配備反対などを申入れました。退職者会は3名参加し、沖縄と連帯して闘う決意を示しました。

自治退東京 学習会

戦争法案に反対し、 平和を守る決意を再確認

6月4～5日、自治退都本部学習会が箱根路開雲で開かれました。

学習会のテーマは「安倍政権と戦争といのち」。

講師の平和フォーラム事務局長の藤本泰成さんは、「安倍政権は、戦争のできる国を目指している。アメリカの要請に基づいて日米ガイドラインを改定し、集団的自衛権行使容認→憲法改悪の強行をたくらんでいる。安倍は戦後70

年談話で、村山談話（戦後50年）、小泉談話（戦後60年）を消し去ろうとしている。小泉はアジア・アフリカ会議の演説で『植民地支配と侵略』『痛切なる反省と心からの詫言』を表明したが、安倍は同会議演説でこれらに触れていない。戦争法案を葬り、安倍政権を打倒することが現下の最大の課題だ。」と熱く話されました。戦争法を阻止し、平和な社会を残すことが何より大事だと再認識できた学習会でした。

今年の旅行は伊豆方面 11月15日・16日の1泊

今年の親睦旅行は、11月15日・16日の1泊2日で、「明治日本の産業遺産と開国の街を訪ねる旅」です。コースは、富士山の名水「柿田川湧水」、世界遺産候補「韮山反射炉」、下田市内散策、みかん狩りと変化に富んでおり、宿は下田の予定です。

参加費などの詳細は7月9日の幹事会で決めて、9月になってから参加を募集します。ぜひ、カレンダーの11月15日と16日に「清掃退職者会親睦旅行の日」と書き込んでください。



世界遺産候補「韮山反射炉」

訃報

最長老石川幸男さん逝去

石川幸男さんが6月18日に亡くなりました。

石川さんは港東支部副委員長などを歴任。退職後は退職者会活動に熱心でした。印象深いのは、カムチャツカ半島直近の占守島旧日本軍守備隊で敗戦を迎え、シベリア抑留で苦勞したことを何度も話され、戦争の愚かしさを教えていただいたことでした。昨年の旅行会にも参加いただき、今年1月の新春の集い



今年の「新春の集い」にて

でも元気な姿を拝見していただけに、残念でなりません。享年92歳。「大往生です」と、ご遺族から伺いました。謹んで故人のご冥福を祈ります。

退職者会 活動日誌

＊4月28日の第5回幹事会から5月まで

- ▼4月28日、企画部・旅行部合同部会で親睦旅行の基本企画案等を検討。▼4月29日、中央ミーデーに5名参加。▼5月1日、日比谷ミーデーに19名参加。▼5月3日、「5・3憲法集会」に12名参加。▼5月13日、清掃会館で定期総会議案書印刷・製本。▼5月14日、福祉保険退定期総会・懇親会に戸張副会長が参加。▼5月18日、「戦後70年」問題特別講演会（村山富市元首相を迎えて）に柳副会長と庄司事務局長が参加。▼5月19日、都市整備退定期総会・懇親会に庄司事務局長が参加。▼5月21日に第8回定期総会。▼5月21日、狭山事件の再審を求める市民集会に3名参加。▼5月24日、辺野古新基地建設反対！国会包囲行動に6名参加。▼5月27日、労働法制改悪阻止ウィーク全国集会に柳副会長が参加。▼5月28日、主税退定期総会・懇親会に戸張副会長が参加。▼事務局長が参加。▼事務局会議・事務業務は5回。行事企画、機関紙等送付、定期総会・ミーデー準備など。



東京清掃組織・自治研集会



区民との協働で

良質な清掃事業確立へ

東京清掃は、6月14日・15日に箱根路開雲で、「区民との協働による清掃事業を考える」場として、各区の推薦議員を招き、組織集会兼自治研集会を開催しました。

組織集会と自治研集会を重ねるのも異例ですが、今回は従来とは大きく変わって、ブレインストーミング（タブラを設けず自由にアイデアを出し合う手法）という少人数

の参加型グループ討議で実施されました。

区民のための清掃事業確立の第一歩は、区民のニーズを知り、その解決方法を区民とともに考えていくことです。

区民のニーズを想像して出し合い、解決策を検討するという手法で行われたグループ討議は、笑い声が絶えない和やかな雰囲気の中、真剣な対話を通じて、現場体験を踏まえた組合員と区議の意見が融合するなど、これまでの集会とは全く違う手作り感が、とても斬新で好ましいものでした。参加者にも「みんなで作り上げた」という満足感が残ったと思います。東京清掃に新たな歴史が刻まれる予感を漂わせる集会になりました。

東京清掃は、この集会を運動の出発点として、議員懇談会や市民集会を計画しています。退職者会は、現役世代の取組みを応援していきたいと思えます。

狭山現地調査

久しぶりに参加し、感動をいただき感謝

清掃・人権交流会主催の狭山現地調査が6月14日に行われ、久しぶりに参加しました。何より感動をしたのは、見えない手錠がはめられているとはいえ、石川さんと早智子さんが、眼前にいます。

石川さんが、獄中で看守さんから字を学んだことは知っていました。看守さんの奥さんのことは知りませんでした。「受刑者に字を教えることがばれたら首になる、その時は、私が食べさせてやるから心配しないで。」と、月給が9千円の時代に2千円を石川さんの通信費に差し入れし、7千円の生活を10数年続けた奥さんは、石川さんにとって観音様に思えたでしょう。看守さんの娘さんの結婚式に招待され、スピーチをし、娘さんと手を取り合ったという下りは、目頭が熱くなりました。獄中で、字を獲得すること

は、命懸けです。看守さんが手助けしたのは、誠実な石川さんの無実を確信したからでしょう。現地調査を終えて改めて思うことは、事実調べの重要性です。殺害現場近くで農作業をしていた「O」さんの証言が実現すれば、再審の門を確実にこじ開けられるでしょう。見えない手錠を解き放ち、石川さんが望むビルでお風呂を満たしてお祝いできることを、心から待ち望んでいます。（郡司）



狭山現地闘争本部（元石川さん実家）前